

大学基礎セミナー I の更なる取り組み

広谷大助・岡田高嘉
萩田信二郎・吉田倫子

1. はじめに

大学基礎セミナーIは本学の学部学科再編に関して、令和2年度から始まった全学共通教育科目の学びスキル・リテラシーに属する1年生対象の1単位の必修科目である。令和3年度の受講生は550名（広島213名（1名途中休学）、庄原142名、三原195名（1名履修取消））であり、本学で最も受講者の多い授業である。昨年度も本紀要にて報告を行った（広谷ら、2021年）が、授業2年目である本年度も様々な取り組みを行った。よって、本稿では本年度に行った更なる取り組みを紹介し、それらを行った結果である学生のフィードバックを分析し、本授業の成果についてまとめ、最後に今後の課題を述べる。

2. 学修目標及び授業の目的

学修目標として学力の3要素から以下の項目を設定した。これらはこれから大学生活を送るために必要な能力として必要不可欠なものである。

【知識・技能の観点】

- 最新の学問的成果に基づいた知識を学ぶ方法を理解している。
- 大学生活を健全に送るために必要な事柄を理解している。

【思考力・判断力・表現力の観点】

- 様々な意見に耳を傾けて、筋道立てて冷静に考え、その場にふさわしい表現を用いて自分の意見を伝えることができる。

【主体性・協働性の観点】

- 大学における学修方法の着実な修得に向けて、主体的に行動している。
- 他者と協働することの大切さを理解し、グループワークなどに積極的に取り組んでいる。

これらを踏まえ、本授業では大学における学修や研究を円滑に進めるために必要な基本的知識・技能や主体的な学修姿勢を身に付けることを目的とする。具体的には、大学における授業・評価・単位について理解するとともに、さまざまな学術的テーマや内容に関するリーディング、ライティング、ノートテイキング、インターネットによる情報収集、図書館における文献検索、レポート作成、プレゼンテーション等を通じて、基本的な学修方法を身に付けることである。これらの内容について簡潔に解説をしている『大学生 学びのハンドブック 5 訂版』（世界思想社編集部、2021年）をテキストとして指定して、授業で活用した。

なお、令和3年度は、授業の初回と最後に、本科目の学修目標（学力の3要素に基づく上記5項目）

について、5段階で自己評価をしてもらい、本科目の受講前と受講後でどの程度学生が成長したのか、すなわち学生の成長の度合いを調査することとした。この点の詳細については後述する。

3. 授業内容

令和2年度から始まった新課程ではクォーター制（四学期制）が採用されているため、8週で試験を含む16回の授業を実施する。つまり、1週につき、90分の授業を2回行うことになる。大学基礎セミナー I は、第1クォーターの火曜日1限目及び2限目に連続して実施した。但し、本科目では試験は行なわない。

授業の内容及び計画は表1のとおりである。第1週から第3週までは、いわゆる全体授業であり、3キャンパスのすべての学生が同じ教員による授業をオンライン（オンデマンド）で受講した。学生は自宅その他の場所で授業動画をMicrosoft Streamで視聴し、授業ごとにこちらで用意した形式に沿ってミニレポートを書いて提出することとした。ミニレポートの内容としては、まず250字から300字以内で講演の概要を書かせ、キーワードを3つ書かせた。その上で各教員が設定した課題について250字から300字以内で答えさせるようにした。これらを行うことによって、十分に授業動画を視聴しないと答えられないようにした。

昨年度に続き、毎週webアンケートを実施し、学生の理解度や到達度を調査するとともに、自由記述欄を設けて学生の反応を探った。第1週から第3週のアンケート結果は、授業を担当した教員へフィードバックし、当該教員にはアンケート結果を踏まえた総括コメントの作成を依頼した。この総括コメントは速やかに学生に公開し、オンライン授業における双方向性の確保に努めた。

当初の予定では、オンライン授業は、第1週から第3週の全体授業までであった。第4週以降は、各キャンパスにおける少人数形式の個別演習（1クラス15名前後の学生で構成）が中心であり、それらを「対面」で実施することを予定していた。ところが、5月の大型連休後、新型コロナウイルスの感染者が全国的に急増し、対面授業の実施が極めて困難な状況となり、結果的に最後（第8週）までオンラインで実施することとなった。

第4週以降のクラス別の個別演習は、基本的にリアルタイム方式である。Microsoft Teamsなどを利用し、教員はテキストを活用し、教員と学生間の質疑応答、学生同士の意見交換を取り入れながら、オンライン上で個別演習を行った。第4週以降もwebアンケートを実施し、学生の反応を探った。アンケート結果は速やかに担当教員間で共有し、次週への授業改善に役立てることとした。

当初は、第5週（5月18日）に「対面」で本学の図書館システムや情報検索の仕方を学んでもらうとともに、いわゆる図書館ツアーも企画していた。感染状況が落ち着くことを願い、この内容を第6週（5月25日）に後ろ倒しにしたものの、結局オンラインでの実施となり、図書館ツアーも実現しなかった。しかし、今年度は、各キャンパスにおいて、学術情報センター職員による図書館ガイダンスがリアルタイムで行われた。学生は、オンライン上で本学の図書館システム（マイライブラリ）の使い方や、情報検索のための様々な方法について演習を交えながら実践的に学ぶことができたと考えられる。webアンケートで示された質問や疑問については、Q&A形式にして可能な限り丁寧に回答するよう心がけた。

第8週は、本科目の集大成として、第4週から第7週までに習得した技能を用いて、第1週から第3週までの内容に関連するポスターを個人で作成し、プレゼンテーションを行い、そのプレゼンター

ションに対してクラス単位で相互評価を行った。各学生は、ポスター及びプレゼンテーションの自己評価を行うとともに相互評価として、グループの他のメンバーの個人ポスターを評価した。

学修成果の評価方法は、第1週から第3週（ミニレポート）と第8週（自己評価と相互評価）について全学的に統一したが、これら以外については各クラスの担当教員の判断に委ねられた。

表1：令和3年度大学基礎セミナーIの授業内容

週	日程	授業の内容	オンライン開講形式
1	4/13	大学における学びの特徴（受動的学びから能動的学びへ） 森永力学長（60分） ミニレポート・Webアンケート（30分）	オンデマンド
		ハイブリッドでアクティブに学ぶ 馬本勉副学長（60分） ミニレポート・Webアンケート（30分）	
2	4/20	「大学生活」を充実したものにするために 大学生としての健全な生活習慣を身につける 細羽竜也教授（60分） ミニレポート・Webアンケート（30分）	オンデマンド
		大学生活と心の健康 笹倉尚子准教授（60分） ミニレポート・Webアンケート（30分）	
3	4/27	キャリアデザイン 原田淳教授（50分） ミニレポート・Webアンケート（30分）	オンデマンド
		原田淳教授（45分） ミニレポート・Webアンケート（30分） 県立広島大学大学院総合学術研究科紹介（25分） 三浦朗教授（人間文化学専攻） 折本寿子准教授（情報マネジメント専攻） 齋藤靖和教授（生命システム科学専攻） 吉川ひろみ教授（保健福祉学専攻）	
4	5/11	ノートのとり方 テキストの読み方	リアルタイム
5	5/18	レポートの書き方 グループワークの進め方	リアルタイム
6	5/25	資料検索の仕方 学術情報センター職員によるガイダンス	リアルタイム
7	6/1	プレゼンテーションの仕方 個人ポスター作成	リアルタイム
8	6/8	プレゼンテーション クラス単位で相互評価	リアルタイム

4. プレゼンテーション

大学基礎セミナーIの集大成として、学生は第4週から第7週までに習得した技能を用いて、第1週から第3週までの内容に関連するポスターを個人で作成し、プレゼンテーションを行った。ポスターはMicrosoft WordやPower Pointなど任意の方法で作成し序論、本論、結論の構成で行うように指導した。各キャンパスにおける各担当教員が挙げた優秀ポスターの一部を表2から表4に示す。タイトルは原則として第1週から第3週の内容と関連している。

表2：優秀ポスタータイトル（広島キャンパス地域創生学部）

自粛期間（オンライン授業）における心と体の健康づくり	必要な人材を確保するための企業の取り組み —ユニークな採用試験—
コロナ禍における孤独感の精神への影響について	作り笑いが身体・精神に及ぼす影響について
就活を見据えて大学でやるべきこと	ハラスメントに注意しよう
アクティブラーニングと学校教育について	若者のコミュニケーション能力
オンライン授業におけるストレスについて	あいさつの効果について
能力開発のための日常の行動とは	スポーツ選手の心の病
現代社会におけるアイデンティティについて	ながらスマホやめよう

表3：優秀ポスタータイトル（庄原キャンパス生物資源科学部）

会話中における視線行動、表情と印象評価の関係について	森永学長の一連の研究とアクティブラーニングとの関係について
心の健康について	キャリアデザインについて
心の健康と大学生活に及ぼす影響について	大学生活と将来について
変化する働きか方について	キノコの傘について

表4：優秀ポスタータイトル（三原キャンパス保健福祉学部）

コロナ禍でのオリンピック～五輪開催への様々な見方～	大学生が喫煙を始めるきっかけと喫煙が及ぼす影響について
私たちはなぜSNSに依存するのか—現代の若者とSNSとの関わりについて—	睡眠の質を向上させるためにはどうしたら良いか
毎日続けるために	三原市は「地球にやさしい」都市か
身の回りに潜むストレスとその対処法	アクティブラーニングの必要性
第一印象について	「環境の保護」をすることは適当か
キャリアデザインについて	コミュカのホント
心の健康について—日本人大学生のストレス軽減・肯定的な思考を得るために—	

5. Webアンケート結果

前述のように本授業では昨年度と同様に毎週Webアンケートを行い、学生の理解度を把握した。アンケート項目は昨年度と同様で以下の4点である。(1)講演内容または学修内容について理解できたか、(2)講演内容または学修内容は今後活かすことができるか、(3)講演内容または学修内容に対する質問・疑問、(4)講演内容あるいは学修内容に対する感想・意見。なお、第1週から第3週までは講師別にアンケートを行ったが、原田教授に関しては2コマ分提供いただいたためコマごとに行った。回収率及び結果をキャンパスごとに下の表5に示す。なお、理解度は第3回までは講師ごとにそれぞれ講演内容に沿った問いを設定し、講師によっては複数問設定した。満点は5点とし、1点が最も低く、5点が最も高い評価となる。

表5：Webアンケート回収率及び結果

週	回収率 (%)				理解度 (全問の平均値)				今後に活かそうか			
	広島	庄原	三原	全体	広島	庄原	三原	全体	広島	庄原	三原	全体
1 (森永学長)	99.5	98.6	100	99.5	4.24	4.38	4.47	4.36	4.00	4.27	4.26	4.16
1 (馬本副学長)	99.5	99.3	100	99.6	4.40	4.30	4.60	4.45	4.41	4.51	4.62	4.51
2 (細羽教授)	98.1	98.6	100	98.9	4.82	4.70	4.91	4.82	4.80	4.66	4.86	4.79
2 (笹倉准教授)	97.7	95.0	100	98.4	4.78	4.63	4.89	4.78	4.81	4.64	4.87	4.79
3 (原田教授1)	97.2	94.3	99.5	97.3	4.44	4.24	4.66	4.47	4.78	4.71	4.92	4.82
3 (原田教授2)	97.7	94.3	100	97.6	4.85	4.77	4.94	4.86	4.58	4.39	4.78	4.60
4	98.1	97.9	100	98.5	4.69	4.51	4.87	4.71	4.77	4.66	4.90	4.79
5	97.7	98.6	100	98.5	4.78	4.54	4.91	4.76	4.81	4.61	4.93	4.80
6	97.7	96.5	100	98.2	4.73	4.54	4.77	4.70	4.81	4.66	4.88	4.80
7	93.4	93.0	100	95.6	4.77	4.53	4.84	4.74	4.74	4.62	4.86	4.75
8	97.7	97.9	99.5	98.5	プレゼンのため未実施				4.85	4.74	4.92	4.85
平均	97.7	96.7	99.9	98.2	4.65	4.51	4.79	4.67	4.67	4.59	4.80	4.70

表5より全ての回において各教員の声掛けもあり全体の回収率は95%を超えた。但し、キャンパス別に見ると少しばらつきが見られた。その上で結果を見ると、理解度及び今後に活かそうか双方においてほとんどの項目にて平均点が4.0を超えており、学生は関心を持って受講し学修を行ったことが伺える。また、キャンパス毎でも同様の結果が得られ、更に全ての回の感想もほとんどの学生が記入しており、このことから本授業における学修内容が充実しており、学生が満足したことが分かる。

6. ルーブリック結果

2節で述べた学修目標がどれくらい達成できたかを前述のとおり本年度初めて各学生に5段階で評価をしてもらった。結果を図1に示す。図1では各項目別に全体及び各キャンパスの結果を示している。なお、見やすくするため最小値を3とし、キャンパス毎で線の種類を統一した。

これらの結果より、学生は授業開始時と授業終了時と比べほぼ1ポイント増加していることが分かり、学生の成長を可視化することができた。これは実際前節のWebアンケートとも連動していることが分かり、それによってキャンパス別の特徴もはっきりしており、今後の改善点も明らかになったと考える。

大学基礎セミナー I の更なる取り組み

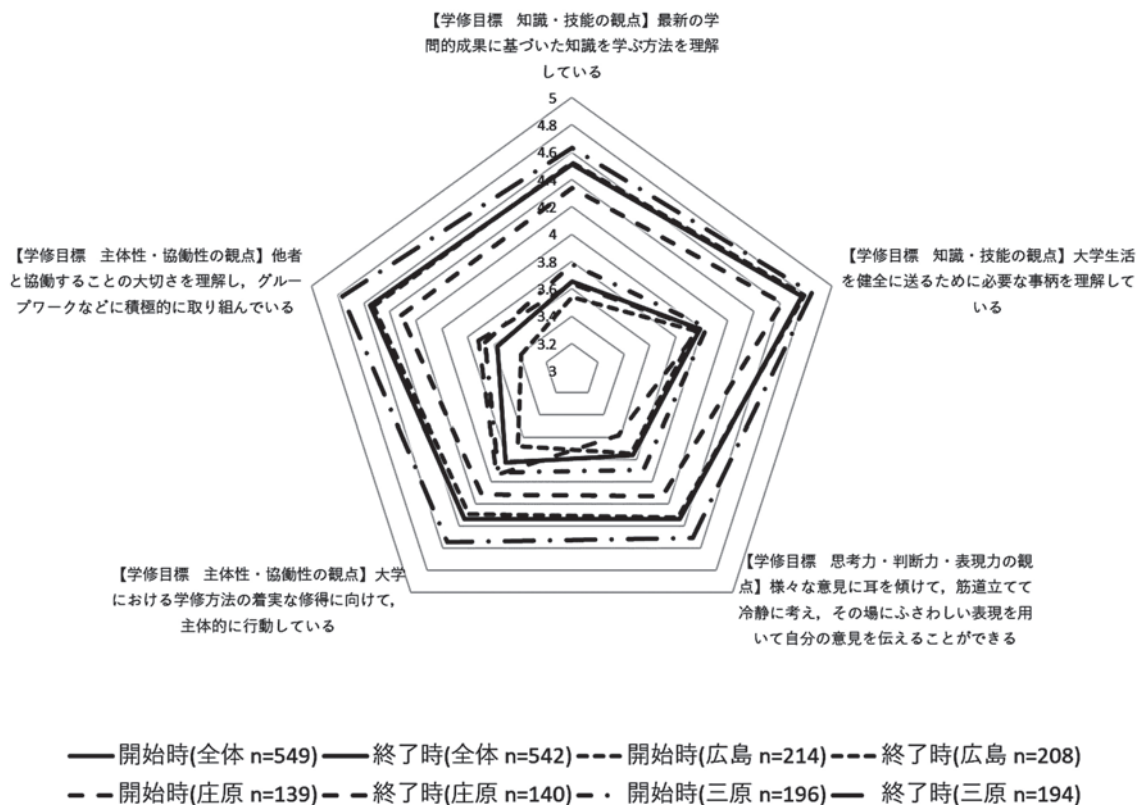


図1：ルーブリック結果

7. 授業評価アンケート結果

授業終了後に行った授業評価アンケートの広島キャンパスの結果を図2に示す。授業評価アンケートについて広島キャンパス・庄原キャンパスはそれぞれ全体で1つのアンケート、三原キャンパスは各担当教員別にアンケートを取っており、対象学生数が大きい広島キャンパスを挙げて分析を行った。

回収率が76.6% (214名中164名)となり昨年度の65.4%と比べ約10%増加した。なお、昨年度と授業評価アンケートのシステムが異なっており、回答率も上昇したことから単純に比較が難しいが、昨年度とほぼ同様の結果が得られた。特に本年度もBの授業と教員の質問に関してB5の「この授業の内容に関してさらに学びたくなる」の項目以外3または4と評価された割合はほぼ90%以上だった。ちなみにこれも昨年度も同じ傾向であった。自由記述では全てオンライン授業で行ったことへの是非が書かれており、オンラインで良かった、対面の方が良かった両方の記述が見られた。これらに対する対応については今後の課題であると考えます。いずれにしても以上の結果より、学生にとって初年次導入科目としてこれから学生生活を送る上で意味のある授業であったことが分かる。

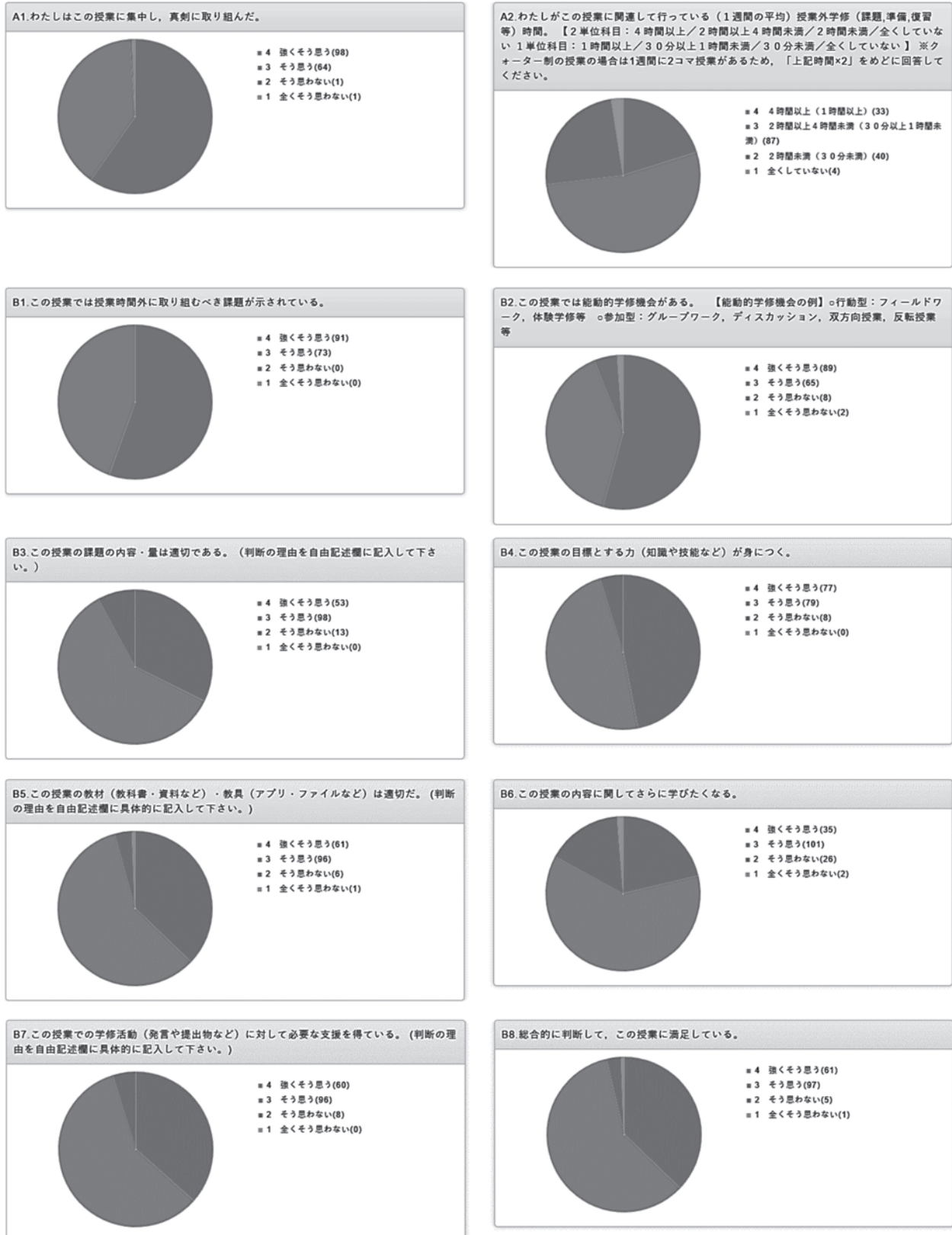


図2：授業評価アンケート結果（広島キャンパス・地域創生学部）

8. 終わりに

本稿では令和2年度から始まった大学基礎セミナー I に対する更なる取り組みとその成果について述べた。本年度も昨年度と同様に全てオンライン授業を行ったが、授業内容を更に充実させ、リアルタイム授業を増やすことにより学生の理解が進み、授業の目的を達成したことが収集したデータ等より明らかになった。

来年度こそは対面授業を取り入れたいと考えており、オンライン授業との兼ね合いが今後の課題として残されている。学生の授業評価アンケートの自由記述欄からも明らかになったようにオンライン授業だったからこそできた面があることは否めない。よって、全て対面授業ではなくオンライン授業の良い面を残す必要があると考える。また、オンライン授業関係なく本学独自の授業としての特色を更に出すことも依然課題として残っており、今後の課題となりえる。

参考文献

広谷大助、岡田高嘉、萩田信二郎、吉田倫子、大学基礎セミナー I の取り組み、県立広島大学大学教育実践センター紀要、第1号、pp. 41-49、2021年
世界思想社編集部編、大学生 学びのハンドブック [5訂版]、世界思想社、2021年